

問いを立てて考える

●最初に大きな問いで考える

「～とは何か？」 「私たちはどうして～するのか」

●理由・根拠・目的を考える

「なぜ～なのか？」 「どこから～と思うか？」 「どのようなときに～と思うか？」
「何を目的として～という言葉を使うか？」 「なぜ（どうして）～と考えるのか？」

●具体的なことで考える

「たとえば、どういうことか？」 「～が当てはまることには何があるだろうか？」

●関係性から考える

「そうでない場合は、どういう場合か？」 「それ以外の可能性はないか？」
「○○と□□はどう関係しているか？ ○○であれば□□になるのか？」
「○○と□□は同じことか、違うことか？ その間に意味のズレはあるか？ どこがずれているか？」
「○○は□□と、どこまでが同じでどこから違うか？ どこまでが○○で、どこからが□□なのか？」

●考え漏らしていることはないか、視野を広げて考える

「それで全部だろうか？」 「ほかに何か考えることはないだろうか？」
「別の見方はあるか？」 「そうじゃない可能性はないだろうか？」

●5W1H

「誰（何）が？」 「誰（何）に？」 「誰（何）と？」 「誰（何）によって？」 「誰（何）のため？」
「どこ？」 「いつ？」 「なぜ？」 「どうやって？」 「どれくらい？」

●考えの根拠を探る、あるいはさらに展開できるか考える

「私がそう考える理由は何なのか？」
「そう考えたとしたら、次にどういうことになるか？」
「それについてさらに考えることはあるか？」